織田信長―野望と挫折

小和田哲男

プロフィール　織田信長

●織田氏のルーツと信長

織田信長の先祖は，越前国丹生郡織田荘（福井県越前町）を苗字の地とする武士で，越前守護として入ってきた斯波氏に仕えている。やがて，その斯波氏が尾張守護を兼ねた際，1400年（応永7）に守護代として尾張に入国した。尾張国は郡が八つあり，北の方，すなわち上四郡（丹生・羽栗・中島・春日井）の守護代と，南の方，すなわち下四郡（海東・海西・愛知・知多）の守護代の二人守護代の体制となり，上四郡守護代が岩倉城（愛知県岩倉市）に拠る岩倉織田氏，下四郡守護代が清洲城（愛知県清須市）に拠る清洲織田氏となった。

信長の父信秀の代までは，信長の家系はこの清洲織田氏の「三家老」の一人にすぎなかった。ところが，信秀は，居城だった勝幡城（愛知県稲沢市）の近くに位置する木曽川舟運・伊勢湾舟運の拠点の湊である津島湊を押さえ，商品流通経済をバックに急速に台頭し，主家である清洲織田氏を凌駕し，ついに尾張平定に乗り出しているのである。

北の敵，美濃の斎藤道三，東の敵，三河まで力を伸ばしてきた駿河の今川義元の二人と同時に戦う不利を考え，信秀は道三とは同盟を結んでいる。そのとき，信長に嫁いできたのが道三の娘の濃姫であった。

信秀の段階では尾張統一はできなかったが，その遺業を継いだのが信長である。1554年（天文23），守護斯波義統が下四郡守護代織田信友に殺されるという事件が起こった。信長はすかさず翌1555年（弘治元），守護を弑逆した信友を討つという名目で清洲城に信友を攻め，清洲城への入城を果たしている。

この結果，残る敵は岩倉織田氏だけになった。そして，ついに，1559年（永禄2），信長は岩倉城を攻め上四郡守護代織田信安をも追放し，尾張を代表する勢力にのし上がっていくのである。今川義元と戦う桶狭間の戦いの1年前のことであった。

織田信長略年表

1534年	織田信秀の子として尾張に生まれる（幼名吉法師）
1546	元服し，上総介（信長）と称す
1551	父信秀が没し家督を継ぐ
1560	桶狭間の戦いで今川軍に圧勝
1567	斉藤龍興を攻め，稲葉山城を落す（美濃を平定）（34歳）
1568	足利義昭を奉じて上洛
1569	キリスト教の布教を許可する
1570	石山本願寺との戦いが始まる
1571	比叡山延暦寺を焼き討ちする 近江の浅井・越前の朝倉連合軍を姉川の戦いで破る（38歳）
1573	将軍義昭を追放（室町幕府滅亡）
1576	安土城を建築（～79）
1582	甲州攻めを始める 本能寺の変で自刃する（49歳）

戦国大名の動向

1553年	武田信玄・上杉謙信の第1回川中島の戦い
1555	毛利元就，陶晴賢を破る
1560	今川義元，駿河・遠江・三河を支配
1566	信長の命により美濃攻略のため木下藤吉郎が墨俣城を築く
1568	足利義昭，信長の助力により室町幕府第15代将軍となる
1572	徳川家康，三方原の戦いで武田信玄に敗れる
1575	家康，信長の援軍を受け武田勝頼を長篠の戦いで破る
1577	信長の命による羽柴秀吉の中国（毛利氏）攻めが始まる
1582	天目山の戦いで武田氏滅亡
1583	賤ヶ岳の戦いで秀吉が柴田勝家を破り信長の後継者となる

織田信長の足跡を訪ねて

- 桶狭間古戦場跡〈豊明市栄町〉
- 岐阜城〈岐阜市〉
- 姉川古戦場跡〈滋賀県長浜市浅井〉
- 延暦時〈大津市坂本本町〉（焼き討ちを免がれた瑠璃堂が残っている）
- 長篠城跡〈新城市長篠市場〉（長篠城址史跡保存館がある）
- 安土城跡〈滋賀県近江八幡市〉（二の丸跡に秀吉が建てた信長廟がある）
- 清洲城跡〈清須市清洲古城〉
- 本能寺跡〈京都市中京区油小路通蛸薬師山田町〉（碑だけが立つ）
- 崇福寺〈岐阜市長良福光〉（信長の菩提寺，信長，信忠父子の廟がある）
- 勝幡城跡〈稲沢市平和町〉（信長が誕生したとの説がある）

●天下統一への布石

1560年（永禄3）の桶狭間の戦いの勝利により，東方からの脅威が消えた信長は，美濃へと駒を進め，1567年（永禄10），斎藤龍興を稲葉山城（岐阜市）から追い落して美濃を平定した。この頃から信長は「天下布武」の4文字を印文とする印判状を発給し，天下統一の意志を明確にしている。

このあと信長は，北伊勢の神戸具盛を攻めて三男三七丸（後の織田信孝）を養子に送り込むと，北近江の浅井長政とは同盟を結んで妹のお市を長政に嫁した。こうして上洛までの経路で敵対する勢力は南近江の六角氏だけとなった。

1568年（永禄11）9月7日，信長は自ら尾張・美濃・伊勢の大軍を率いて岐阜を出発した。その総勢は4万とも6万ともいう。近江で浅井長政の軍勢と合流し，観音寺城の六角承禎・義治父子を敗走させると，26日には足利義昭を奉じて入京を果たした。

●将軍義昭の抵抗

義昭は，松永久秀らによって暗殺された13代将軍義輝の弟である。入京した信長は，久秀らが擁立した14代将軍義栄を追放した。こうして悲願の将軍宣下を受けた義昭は，わずか3歳年長の信長を父と呼ぶほどの喜びようであったという。

ただ，信長は義昭を15代将軍に就けたからといって，室町幕府の再興を望んでいた訳ではない。「天下布武」を目指す信長は，自らが武家の頂点に君臨することを考えていたのである。信長は，将軍としての権限を定めた9か条の「殿中掟」をつくり，これを義昭に認めさせた。

しだいに傀儡化していくことを悟った義昭は，信長の排除を企み，本願寺・武田信玄・毛利元就・朝倉義景らを糾合して信長包囲網を形成する。信長は1570年（元亀元），朝倉義景と結んだ義弟の浅井長政を姉川の戦い（滋賀県長浜市野村町）で破るが，1572年（元亀3），西上を開始した信玄と信長の盟友徳川家康が争った三方原の戦い（静岡県浜松市）に援軍を送るも完敗している。

●信長に追放された将軍義昭

信長と不和になった義昭は，1573年（天正元）3月，ついに反旗を翻す。このときは朝廷の働きかけで和約がなったが，6月，槇島城（京都府宇治市槇島町）に拠って再び挙兵したときには信長に攻略され，嫡男の義尋を人質に差し出して城を出た。

将軍職を解任されたわけではなかったが，事実上，このときに室町幕府は滅亡したとされている。義昭は毛利領の備後鞆（広島県福山市）に逃れて幕府再興の機会を